

## 学習に主体的に取り組み、学び合う子どもの育成

南魚沼市立北辰小学校

### I 研究主題

学習に主体的に取り組み、学び合う子どもの育成  
～書く活動や表現の場の工夫を通して～

### II 主題設定の理由

平成 25 年度は、「自分の思いや考えをもち、学び合う子どもの育成」を研究主題に設定し、書く活動を積極的に取り入れ、書いたことをもとに子どもたちが学び合う姿を目指して研修に取り組んだ。

その結果、以下のような成果を得た。

- ・書く活動を教師が意識したことで、書ける子どもが増えた。
- ・書く活動を通して、子どもが自分の気持ちや考えを整理しながら表現することができた。そして、それらを自分の言葉で発言しようとする子どもが増えた。
- ・書く活動を重点にしたことで、日々の授業で目指すものがはっきりした。
- ・書かせたことで、普段発言しない子どもが実は深く考えていることが分かった。

一方で、書くことがあまり得意でない子どもたちは、書くという表現自体が難しい状況にもある。

平成 25 年度 4 月実施の全国学力・学習状況調査の結果では、国語 A は全国平均正答率、県平均正答率ともに上回っており、算数 A は全国平均正答率を上回っている。しかし、国語 B と算数 B では、全国平均正答率と県平均正答率を若干下回っている。また、記述式の問題に対する正答率は、他の問題形式に比べて低く、書くことに関して課題が残っていた。

児童アンケートの結果、授業中、学び合いの中で自分の考えを深めることができたという子どもが、94.0%だった。1 学期の結果の 79.7%から 15 ポイント程度割合が増している。子どもたちは、学び合いの中での自分の成長を感じている様子がうかがえた。教員相互の学び合いで授業改善が行われていった成果だと考える。しかし、学び合うということに対して手立てがあいまいで、書いた後の交流のさせ方が授業研究であまり提案されなかった。書いたことをもとに学び合う活動が効果的にもてなかったことが研修の反省の中で大きな課題として残った。

また、全国学力・学習状況調査の結果では、関心・意欲・態度も全国や県の調査結果に

比べて低い。このことも課題として取り上げたい。

そこで、平成 26 年度は、前年度に引き続き書く活動を取り入れた授業に取り組むとともに、書く活動だけではなく、表現する場の工夫もしたい。書く活動や表現することで主体的に取り組む、学び合う子どもたちの姿を目指す。

### Ⅲ 主題研究の取組について

#### 1 研究のねらい

- 北辰小の教員が共同で授業を研究して授業実践の力量を高めていく。
- 主題研究を通して自分自身の日々の授業の改善や教師としての成長につなげる。

#### 2 主題研究での取組内容

- 授業研究を行う。
- 授業研究は、国語か算数の授業を取り上げる。
- 授業研究での授業は、書く活動や表現の場の工夫についての場面を公開する。

### Ⅳ 授業研究の進め方

#### 1 授業研究の方法

- 国語・算数の教科を担当している教員が年 1 回以上の授業公開を行う。
- 授業公開に先立って、事前検討会を各学年部で 1 回以上行う。
- 授業公開後には、研究協議会を各学年部で行い、成果と課題を話し合う。
- 授業研究は、原則として学年部毎に行う。ただし、学年部以外の参加も自由とする。指導案と成果と課題は、全職員に配付する。
- 授業研究を行った単元終了後に成果と課題を直ちに作成し、全教員に配付する。その単元で研究主題と照らし合わせて授業改善のあり方を探り、次に授業公開を行う教員の参考としていく。
- 授業研究についての事前検討会や授業の記録、研究協議会などについては、各学年部の担当者が調整をし、部内の教員に連絡する。

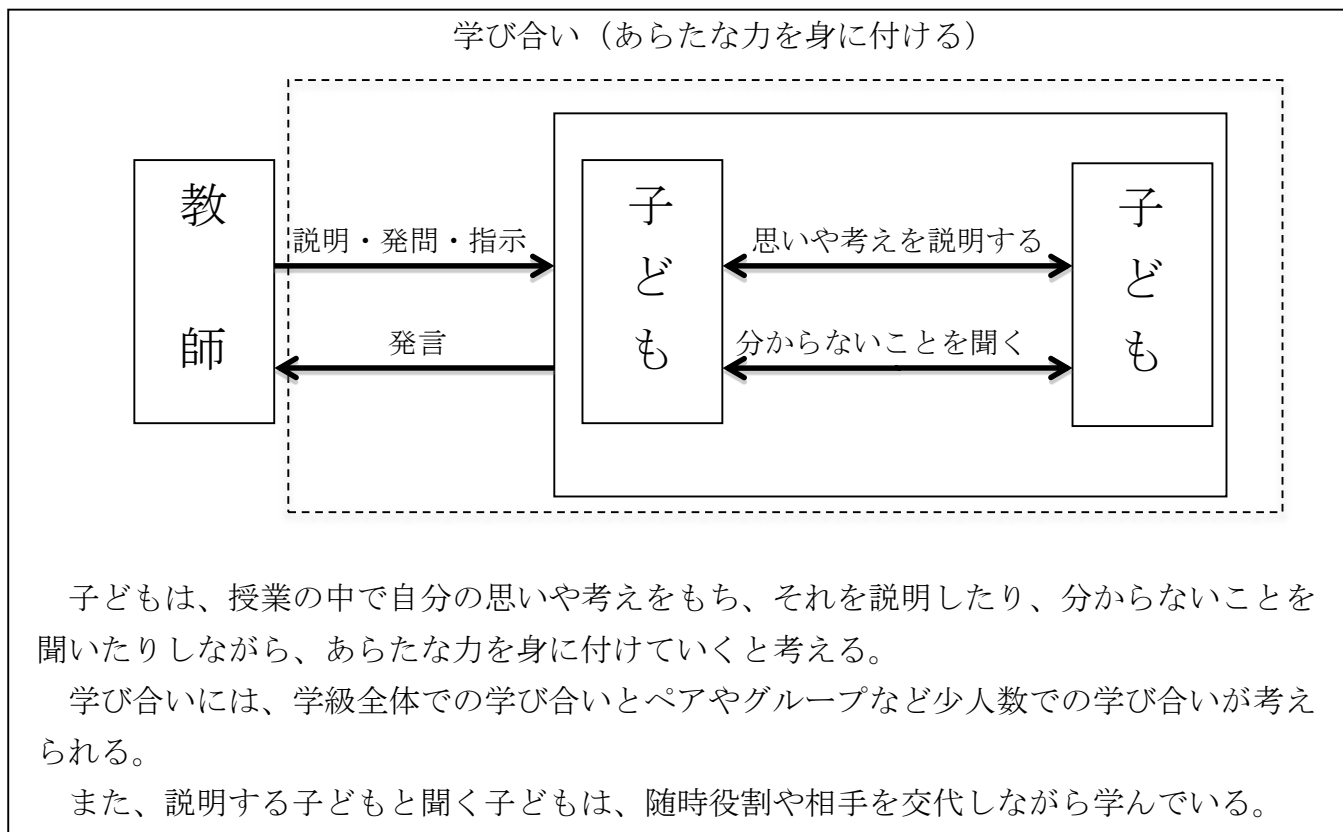
#### 2 授業研究の内容

- 研究主題と学級の児童とを照らし合わせたときの課題
- 授業研究の中での目指す子どもの姿
- そのための手立て
- 手立てが有効に働いたかどうかの評価方法
- 評価をもとにした成果と課題

### Ⅴ 学習指導改善調査でねらう力の育成に関わって

南魚沼郡市小学校教育研究会指定の学習指導（授業力向上）研修会に向けて、学習指導改善調査の結果と研究主題に沿って、以下のように本校の主題研究について整理し、研究の内容を焦点付けた。

## 1 北辰小の学び合い



### ※学び合いでおさえたい事項

- ・ 学び合いの視点（課題や問題など）が明確であること
- ・ 子どもが視点に対して自分の思いや考えをもっていること
- ・ 子どもが自分の思いや考えを伝えていること
- ・ 子どもが友達の思いや考えを自分の思いや考えと比べながら聞いていること
- ・ 子どもが自分の思いや考えを振り返っていること

## 2 研究内容の焦点化

学習指導案の検討・公開授業の協議会で話し合い、研究を深めていく。

○本時のねらいについて明確にする。

（子どものつまずきをもとに、身に付けさせたい力を明確にする。）

○本時のねらいを達成させるための適切な指導過程を考える。

○本時で目指す子どもの姿を具体的にしていく。

（授業展開の中での期待する子どもの姿を明確にする。）

○本時で目指す子どもの姿に迫るための具体的な手立てを考える。

（期待する子どもの姿にするための手立てを考える。）

- ・ 学習形態の工夫だけでは、学び合いの成立は弱い
- ・ 教師の働きかけの工夫（発問・言葉かけ・ポジショニング等）
- ・ 黒板や実物投影機の有効活用

○手立ての有効性を評価する。

## X 成果と課題

書く活動や表現する場を工夫することによって主体的に取り組み、学び合う子どもたちの姿を目指して研修に取り組んだ。

その結果、次のようなことが明らかになった。

- ・ 子どもが学び合うためには、学び合う必然性が必要になる。
- ・ その必然性が生まれるためには、子ども全員が同じ課題をもって授業に取り組めるようにすることが大切になってくる。
- ・ 子どもの課題にするためには、発問、問い返し、提示の工夫などの教師の授業構成力が必要になってくる。
- ・ ゆさぶりの発問が、学び合う子どもたちを育成するために大切である。
- ・ 学び合う子どもたちの姿の具現を目指すことで、授業に主体的に取り組む子どもが増えてきている。
- ・ 伝え合うことの内容を深める手立てが、まだ明らかになっていない。
- ・ ペアやグループでの学び合いを全体のものにしていくことが研究されていない。
- ・ 子どもの言葉を拾っていくことがまだ十分ではない。

また、毎月の Web 配信集計システムの診断問題（以下 Web 配信診断問題）の結果において、25 年度まで県平均を上回ることができなかったのに対して、26 年度は県平均を上回るが増えてきている。全国学力学習状況調査や学習指導改善調査においても、25 年度と比較して、26 年度は数値が上がってきており、確かな学力が身に付きつつある様子が見えてくる。

しかし、日頃の授業での子どもたちは、自分から勉強しようという姿勢は弱く、与えられた問題を考えているという主体性に欠ける様子が見られる。また、低学年では伝え合うということも育っていない様子が見られたり、中高学年では子ども同士で課題に対する話し合いができない様子も見られたりする。今後改善すべき課題としたい。